

# 『はじめてのDSSSL』

## -- 目次 --

第1章フォーマット処理と組版.....	1
1. 組版の概念.....	1
(1) テキストの読みやすさ.....	1
(2) 内容の構造のわかりやすさ.....	3
(3) まとめ.....	7
2. 和文組版.....	8
(1) 欧文との混植に由来する特徴.....	8
(2) 和文組版特有の特徴.....	11
(3) 和文特有の組み方.....	15

# 第1章 フォーマット処理と組版

DSSSLによる**フォーマット処理**とは、DTPの世界でいう**組版処理**に当たります。DSSSLの主な目的であるフォーマット処理を理解していただくため、この章では組版がどのようなものであるかを説明します。

## 1. 組版の概念

「組版」という言葉になじみのない人もいるかもしれませんが、簡単にいうと、組版とは文書を読みやすい体裁にすることです。

ここでは読みやすい文書の条件を次のようにまとめました。

### < テキストの読みやすさを決める条件 >

1. 版面サイズ、段の幅、行長などが適切であること
2. 書体（フォントの種類）、字の大きさ（フォントサイズ）が適切であること
3. スペース（余白、段間、行間、語間、字間）の大きさと位置が適切であること

### < 内容の構造のわかりやすさを決める条件 >

4. 内容の区切り目が視覚的にわかること（章、節、段落）
5. 内容のまとまりが視覚的にわかりやすいこと
6. 別々のまとまり同士の間隔が視覚的にわかりやすいこと

この6つの条件を満たすために、組版を行います。それぞれの条件ごとに、どのような

組版指定を行うかを説明します。ただし、この条件は組版の概念をわかりやすくするためのものです。組版指定を条件ごとに完全に分類できるわけではありません。複数の条件が、1つの指定によって実現するということがあり得ます。

## (1) テキストの読みやすさ

条件1、2、3は、テキスト（文字列）レベルでの読みやすさを左右するものです。

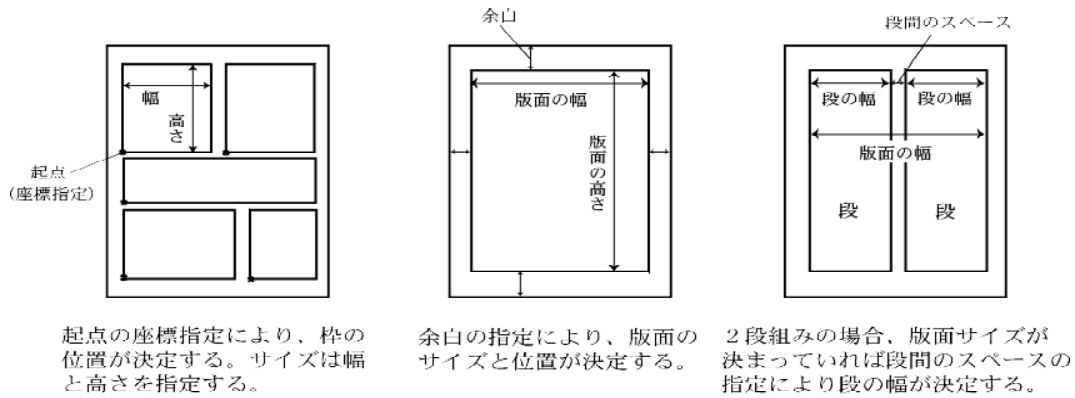
### (a) 条件1 紙面の枠組み

条件1は、紙面に見やすい枠組みを作ることです。この枠の中に内容を配置します。枠は1つとは限りません。**段組み**では、1つの段が1つの枠に当たります。レイアウトの際には、それぞれの枠の大きさと配置を決める必要があります。どのくらいの大きさの枠をどう配置するかは、紙面を視線がどう流れると見やすいかを考慮して決めます。

位置決めは、座標の指定で行うこともあり、枠の周りのスペースの指定によって行うこともあります。スペースを指定すると、枠の配置と同時に大きさも決まります。

たとえば、**版面のサイズ**は、上下・左右の**余白**の大きさを指定することによって決まります。版面のサイズが決まると、行長も決まります。段組みにする場合は、段の数と**段間**のスペースの大きさを指定することによって

、段の幅と行長が決まります。



紙面の枠組み

(b) 条件2 フォント

条件2に対応するのは、フォントの種類やフォントサイズの指定です。

フォントの種類にはわかりやすい例を挙げると、明朝体とゴシック体があります。フォントの種類は文章の内容や目的にあったものを選択します。また、**和文組版**では**縦組み**と**横組み**でフォントを使い分けます。かっこなどの記号類の向きが縦組みと横組みでは異なるからです。

フォントサイズは、条件1で指定した**版面**のサイズや行長に応じて、読みやすい大きさを指定します。

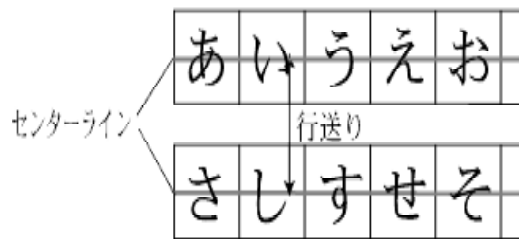
(c) 条件3 スペース

**余白・段間**など、枠の周りのスペースは、条件1にある紙面の枠組みを決定する要素となりました。**行間、語間、字間**のスペースは、文章を枠の中におさめる際に読みやすい配置を決定します。これらのスペースは、読みやすさを決定する要素の中でも基本的なものです。

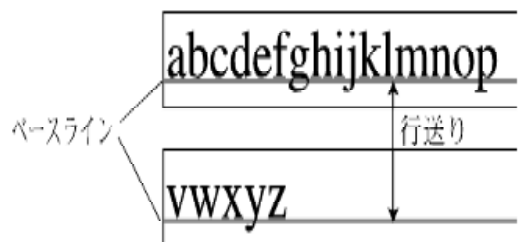
<1>行間

行間は、行長が長い場合は広くとり、行長が短い場合は狭くすると読みやすくなります

行間を決めるのに、行間そのものの大きさを直接に指定するとは限りません。通常は、文字の中心から次の行の文字の中心までの距離を指定して決めます。この距離を**行送り**といいます。欧文の行送りは、**ベースライン**から次の行のベースラインまでの距離です。行間そのものの大きさは、上限は文字の大きさと同じで、下限は文字の大きさの2分の1とするのが普通です。



和文行送り



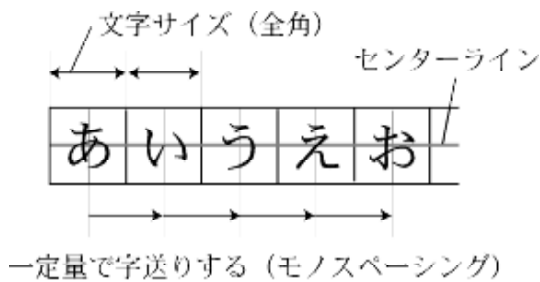
欧文行送り

### <2>語間

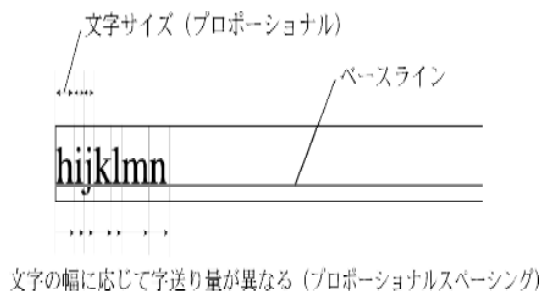
語間は欧文のみにあるものなので、**欧文組版**のところでも説明します。

### <3>字間

字間の考え方は、和文と欧文とはかなり異なります。なぜなら、**和文文字**は通常、どの文字も同じ大きさの「**全角**」であるのに対して、**欧文文字**は文字によってそれぞれ幅が異なるからです。これを「**プロポーションアル**」といいます。



#### 和文文字



#### 欧文文字

全角の場合、字間は基本的に一定になります。このような字送りを**モノスペーシング**といいます。字間は文字の中心から次の文字の中心までの距離（字送り）の指定によって決まります。字間がゼロになる文字の組み方を**ベタ組み**といい、字間がマイナスになる組み方を**詰め組み**といいます。

**欧文文字**を一定量で字送りすると、幅の細い文字が続く場合は間延びして見えます。**字間**を均一に見せるために、文字の幅に応じた

量で字送りすることを**プロポーションアルスペーシング**といいます。

組み合わせる文字の形によっては、それでも字間が空きすぎて見えることがあります。そこで、文字と文字の間を、文字の組合せごとにそれぞれ違った量で詰めることにより、見た目を整えます。この**詰め組み**による字間の調整を**カーニング**といいます。



組み合わせる文字の形に応じて詰める



#### カーニング

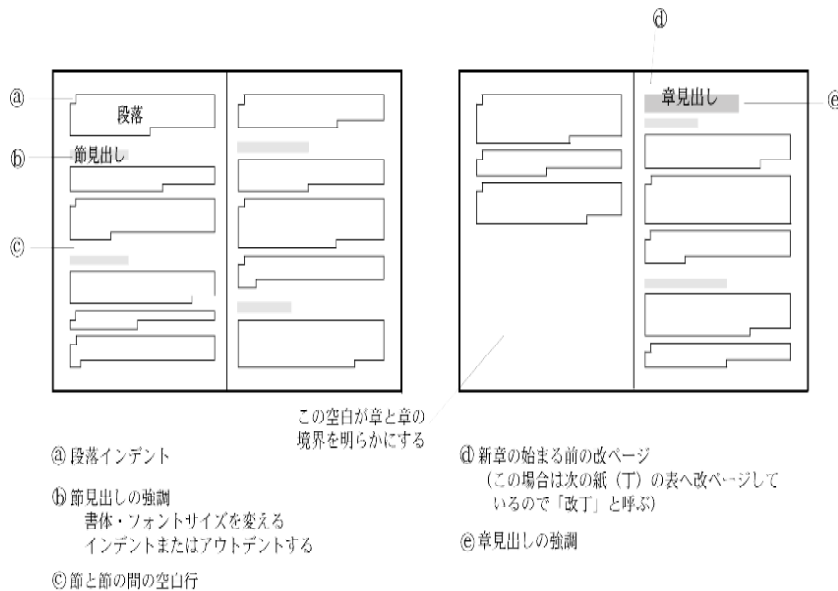
## (2) 内容の構造のわかりやすさ

条件 4、5、6 は、内容の構造レベルでの読みやすさを左右するものです。つまり、内容の構造を視覚的に表すための指定を行うこととなります。これはもちろん、文書の内容が構造化されていることを前提とします。構造化されている文書とは、簡単な例を挙げると、行がまとまって**段落**になり、段落がまとまって**節**になり、節がまとまって**章**になり、章がまとまって1つの文書になっているというものです。つまり、関連のある複数の要素がまとまっていて、そのまとまりの単位が明確になっているものです。

文書の構造を視覚的に表す方法は、構造上の**分割点**を視覚上の分割点と一致させることです。簡単に言えば、互いに関連のあるもの同士を近づけ、そうでないもの同士は離して配置することです。

## (a) 条件 4 内容の区切り目

条件 4 は、内容の区切り目をはっきりさせるということです。互いに関連のあるものを揃えてひとまとめにし、そのまとまりとまとまりの間には空白を入れて区切ります。その例を以下の図に示します。

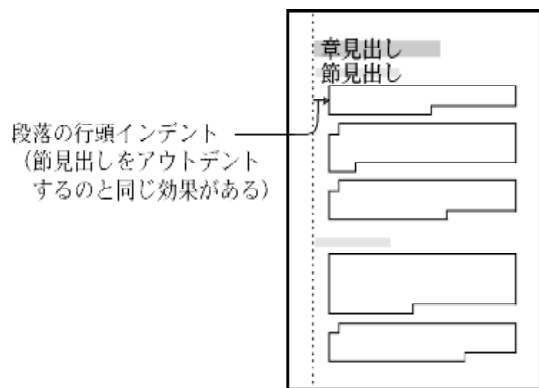


### 内容の区切り目を明らかにする

段落は、複数の行からなるまとまりです。段落と段落の境界をわかりやすくするために、段落の最初の行の頭を**インデント**(字下げ)する方法がよく使われます。

複数の段落がまとまったものが**節**です。節の見出しを目立たせることで、節と節の境界がわかりやすくなります。

**見出し**を目立たせる方法は、フォントの大きさ、太さ、種類などを本文のものと変えることです。また、見出しを**インデント**または**アウトデント**する方法もあります。見出しを動かさず、本文の行頭をインデントすると、見出しをアウトデントするのと同じ効果が得られます。



### 段落の行頭インデント

節と節の境界をはっきりさせるもう1つの方法は、節と節の間、つまり**節見出し**の前に**空白行**をいれることです。これによって、前の節との境界がわかりやすくなります。

複数の節がまとまったものが**章**です。章と章の境界をわかりやすくする方法の1つは、**章見出し**を目立たせることです。具体的な方

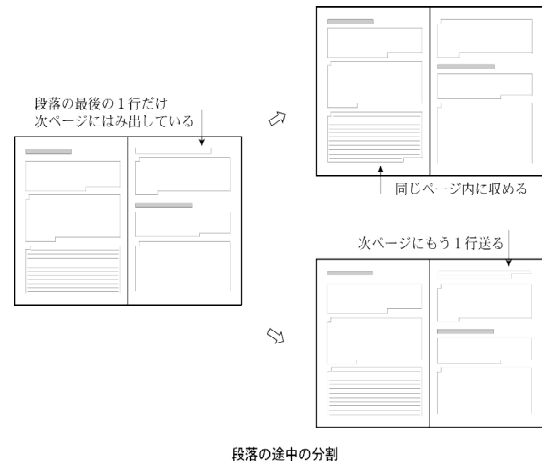
法は**節見出し**と同じです。

もう1つの方法は、改ページです。章を新しいページから開始するという方法が一般的に使われています。改ページといっても、**見開き**の中で改ページするのと、1枚の紙の表から裏へ改ページするのでは意味が異なります。これについては条件5を説明するときに触れます。

分割によってまとまりの一部が孤立して見えるような場合は、分割点が不適切です。たとえば、ページ末の分割で段落の最後の1行だけが次のページにはみ出してしまふのは、分割点が不適切だと言えます。その場合は、はみ出した1行を前のページに収めるか、または次ページにもう1行を送るなどして孤立をなくします。

## (b) 条件5 内容のまとまり

条件5は、どこからどこまでがひとまとまりの内容であるかがわかりやすいことです。ひとまとまりの内容は途中で分割しないのが理想的ですが、実際には配置する空間の大きさに限界があるため、分割が生じます。その場合に、どこを分割するかと、分割したものをそれぞれどのように配置するかには注意が必要です。



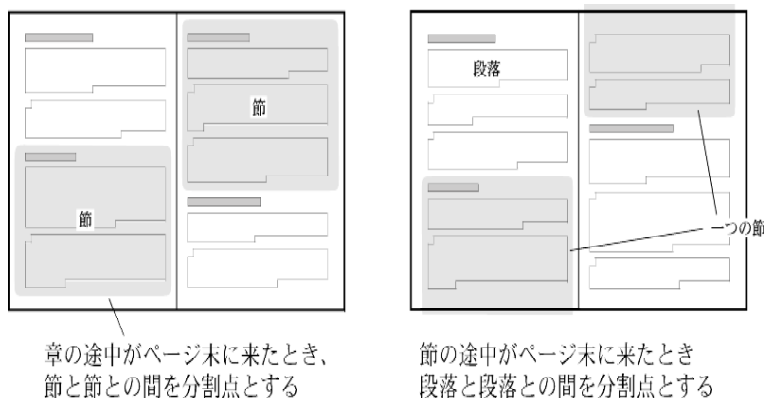
### <1>適切な分割点

条件1で説明したように、紙面には文章を配置するための枠組みが作られています。文章のまとまりがこの枠の中におさまり切らない場合に分割を行います。

分割点として理想的なのは、一連の内容の中にも必ず存在する区切り目の位置です。章の中の分割なら節と節の間、節の中の分割なら段落と段落の間が区切り目になります。

また、**見出し**と本文の間を分割するのは不適切です。見出しが孤立して、見出しと本文とがひとまとまりであることが分かりにくくなるからです。

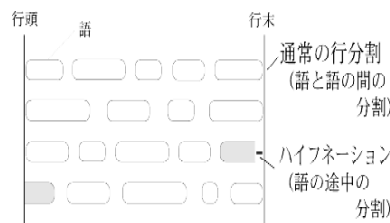
**行分割**では1文と1文の間が**分割点**として理想的ですが、ほとんどの場合に文の途中で分割が生じます。文の途中でも、読みやすさを損なわない箇所を分割点とします。



章や節の途中の分割

行分割の分割点の決定については規則があり、**和文組版**でいう**行末禁則**と**行頭禁則**がそれです。これは**和文組版**の項で詳しく述べます。**欧文組版**にはこのような禁則はなく、代わりに語の分割に関する規則があります。

欧文では和文と違い、語の分割は基本的に避けることになっています。分割点は通常は語と語の間にあります。空間の限界上どうしても必要な場合にのみ、語の途中を分割します。その場合、語の中であらかじめ分割点と決められている点にハイフンを置いて分割します。これを**ハイフネーション**といいます。

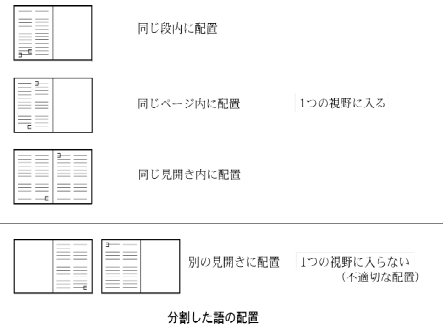


欧文行分割

### <2>適切な配置

1つのまとまりを分割した場合、分割したものの前の部分と後の部分を、互いになるべく近い場所に配置する必要があります。

**ハイフネーション**では、分割した語の前の部分と後の部分を離して配置するのは適切ではありません。たとえば、語を一枚の紙の表ページと裏ページに分割して配置するのは不適切です。それに比べれば、**見開き**の左ページと右ページに分割するほうが適切です。両方とも改ページによる分割ですが、後者は見開きで1つの視野に入るのに対し、前者は1つの視野には入らないため、前者のほうが視覚的に強い分割といえます。同じ改ページといってもこの2つは違うので注意が必要です。



分割した語の配置

### <3>適切な分割のための調整

分割によってどこからどこまでが1つのまとまりであるかがわかりにくくなるのは、**分割点**や**配置**が不適切だからです。適切にするためには、**行間**、**語間**、**字間**などのスペースを調整します。不適切な分割を避けるためにスペースを詰めて調整することを**追い込み**といい、スペースを広げて調整することを**追い出し**といいます。

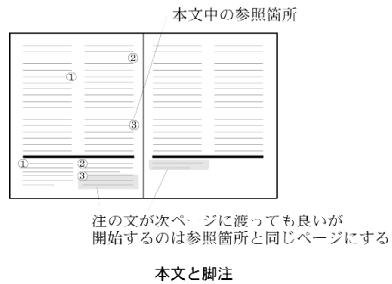
### (c) 条件6 内容の関連

条件6は、ある内容のまとまりと別のまとまりとに関連があるとき、その関連がわかりやすいことです。

たとえば、本文とそれを説明する図、または、本文とそれを補足する注などがこれに当たります。互いに関連するものは、なるべく近くに配置することによって、その2つに関連があることが分かりやすくなります。

関連のあるものがそれぞれ別のページにわかれてしまうことは避けなければなりません。たとえば、**脚注**は参照する本文と同じページから開始する必要があります。脚注の文が次のページにわたっても構いませんが、はじめは同じページに置かなければなりません。別のページに置くと、両者の関連がわかりにくくなってしまいますからです。

実際に配置するときには、関連のあるまとまり同士を合わせて1つのまとまりと考えたり、同期をとったりして処理することになります。



- ・まとまりはなるべく分割しない
- ・分割する場合は、まとまりの中でも意味の切れるところを分割する
- ・分割したまとまりは、それが1つのまとまりであることが分かりやすいように配置する

3. まとまり同士の関連が分かりやすい
  - ・互いに関連するまとまり同士は、近づけて配置する

### (3) まとめ

以上に述べた、読みやすい文書の条件についてもう一度まとめます。文書の「読みやすさ」は、テキスト（文字列）を目で追いやすいということと、内容の構造が視覚的にわかるということの2種類に大別できます。

#### < [テキストの読みやすさ](#) >

1. 文章を入れる枠の大きさ、配置が適切である
2. 読みやすい書体、字の大きさである
3. 適切な大きさのスペースが適切な位置にある
  - ・紙面の見やすさを左右するスペース
    - 余白：版面サイズを決定
    - 段間：コラムの幅、位置を決定（版面サイズ、コラム幅によって行長が決まる）
  - ・テキストの読みやすさを左右するスペース
    - [行間](#)
    - [語間](#)（欧文のみ）
    - [字間](#)（和文と欧文では指定のしかたが異なる）

#### < [内容の構造のわかりやすさ](#) >

1. 内容の区切り目（境界）が分かりやすい
  - ・内容のまとまりとまとまりの間をスペースで分ける
  - ・見出しを目立たせる
2. 内容のまとまりが分かりやすい

## 2. 和文組版

「[組版の概念](#)」では、組版の抽象的な概念について述べました。この概念は和文組版にも**欧文組版**にも共通のもので、この節では、和文組版だけに見られる特徴と、それに伴うルールを説明します。

和文組版には、欧文組版における**シカゴ・ルール**や**オックスフォード・ルール**のような統一された**組版ルール**というものはありません。けれど、DTPの普及によって組版の専門家でない人が組版をするようになり、組版が乱れるようになってから、統一された日本語組版ルールの必要性が高まりました。その結果作られたのが「**日本語文書の行組版方法**」と「**ページネーション・マニュアル**」です。

「日本語文書の行組版方法」は、日本工業規格として作られたものです。和文の行組版に関する規則、特に**行頭禁則**と**行末禁則**及びその処理について詳しく定めています。

「**ページネーション・マニュアル**」は、グラフィックデザイナーの鈴木一誌氏が作ったものです。こちらはページ単位の組版ルールです。DTPソフト"QuarkXPress"を使うことを前提としており、組版の仕方だけでなく、入稿データの受け渡しについても具体的に決めています。

この2つのルールは、「よい組版とは何か」がわからないときの指針とすることができます。

ここでは和文組版の特徴を以下の順に説明します。

< 欧文との混植に由来する特徴 >

1. **表記方向**が2つある（**縦組み**と**横組み**）
2. 2つの表記法が混在している（和文と

欧文）

3. 2種類の文字を使う（**和文文字**と**欧文文字**）
4. 文字を揃えるための基準線が2つある（**センターライン**と**ベースライン**）

< 和文組版特有の特徴 >

5. **約物に関する規則**がある（**全角**、**二分**、**三分**、**四分**、**六分**、**八分**）
6. **行分割に関する規則**がある（**行末禁則**、**行頭禁則**、**分離禁止**）
7. 和文特有の表記法がある（**ルビ**、**圈点**、**割注**）

### (1) 欧文との混植に由来する特徴

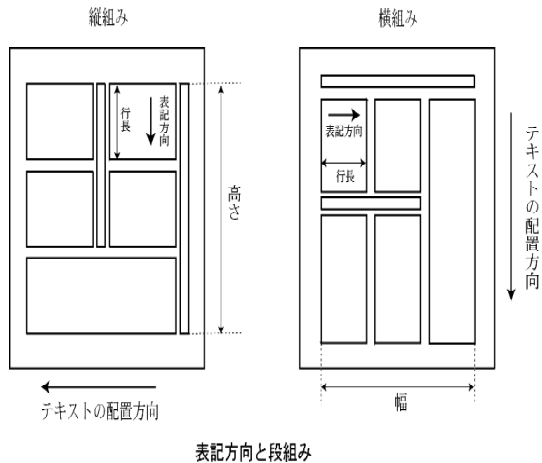
文書の種類にもよりますが、現在の日本語の文章には欧文が混ざることが多くなっています。欧文との混植によって発生した和文組版の特徴を説明します。

#### (a) 特徴

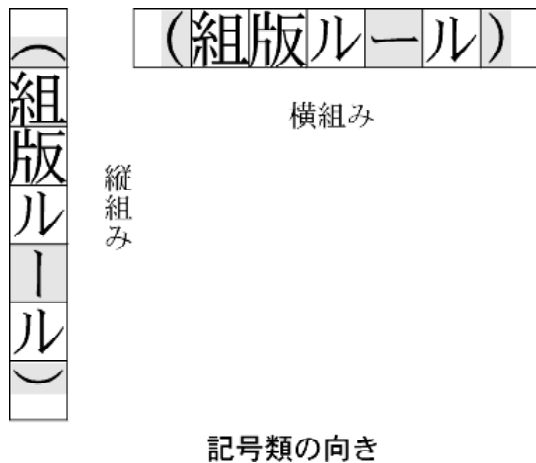
##### <1> 2つの表記方向

日本語の表記には縦書きと横書きの2種類があります。したがって組版にも**縦組み**と**横組み**があります。

**表記方向**によってテキストの配置の仕方が異なるため、**版面**の枠組みも異なります。行長は、**縦組み**の場合は版面の高さによって、**横組み**の場合は版面の幅によって決まります。縦組みと横組みとでは、段の配置の仕方も異なります。



文字も縦組み用と横組み用で使いわける必要があります。かっこや音引きなどの向きが縦と横で異なるためです。



## <2> 2つの表記法

複数の表記法が混在しているということが日本語の大きな特色です。漢字、ひらがな、カタカナという表記法が混ざっている場合は、**和文文字**のみが使われるので組版上の問題にはなりません。問題になるのは、**欧文文字**を使う表記法が混ざることです。

和文に欧文（数字や記号も含む）という表記法が混ざるときは、欧文文字が使われます。欧文文字は、**欧文組版**のための文字なので、和文文字とは扱い方が違います。これについては特徴3で詳しく説明します。

**欧文文字**を使う際には、**欧文組版ルール**にも対応する必要があります。

## <3> 2種類の文字

和文組版で使われる文字は2種類あります。「**組版の概念**」で挙げたそれぞれの特徴を以下にまとめました。

### <3-1> 和文文字

- ・ 字の大きさ : **全角**（文字が全て同じ大きさの正方形の枠内に入っている）
- ・ 字送り : **一定量（モノスペース）**
- ・ 字間 : 一定量（字送りによって決まる）
- ・ 1行ごとの文字の揃え : 行の中心線（センターライン）を基準とする

### <3-2> 欧文文字

- ・ 字の大きさ : **プロポーショナル**（文字によって大きさが異なる）
- ・ 字送り : **プロポーショナル**（文字の大きさによって送り量が異なる）
- ・ 字間 : **カーニング**（文字と文字の組合せに応じて詰める）
- ・ 1行ごとの文字の揃え : **ベースライン**を基準とする

最近の組版システムには欧文用の**DTP**システムを元にしたものが多いので、**和文文字**も**プロポーショナル**や**ベースライン**で扱う傾向があります。特に**横組み**は、**縦組み**よりも欧文との混植になる場合が多いので、組版の仕方も欧文寄りになっています。

<3-3> 「ページネーション・マニュアル」の欧文文字に関するルール

- ・和文中の欧文・洋数字は、欧文書体を使う
- ・縦組みでは全角組み、横組みではプロポーションナル組みを推奨
- ・縦組みではセンターライン、横組みではベースラインで文字を揃える
- ・欧文の語間は、文字サイズの25～30%を基本とし、ケースに応じて±5%とする
- ・欧文の字間はゼロとする
- ・和文とローマ字・洋数字との間は、全角送りの場合は15%、プロポーションナル送りの場合は10%あける
- ・欧文は、ハイフネーション改行をする

文字のベースラインを上下して揃える

- ・和文文字にもベースラインがある場合はベースラインで揃える
- ・和文と欧文の間のスペース  
「行組版法」 四分アキ  
「ページネーション」 本文が全角送りの場合は15（六分）空ける  
プロポーションナル送りの場合は10空ける

中心線揃えと baseline 揃え

センターライン 四分アキ ベースライン 四分アキ



中心線揃えと baseline 揃え

欧文文字のベースラインを移動して揃える  
(ベースラインシフト)

横組みの和欧混植

<4> 2つの基準線

欧文では1行ごとの文字の揃えはベースラインという仮定の線を基準とします。それに対し、和文では行の中心線（センターライン）で文字を揃えます。そのため、和欧混植にすると和文と欧文が揃っていないように見ることがあります。

DTPシステムの中には、欧文文字のベースラインを上下、または左右に動かすことによって和文と欧文を揃えるものがあります。これをベースラインシフトと呼びます。また、ベースライン揃えの和文文字を使うシステムもあります。

(b) 具体例

以上に挙げた特徴1から4の具体例として、次のようなものがあります。

<1>横組みで和文中に欧文を入れる場合

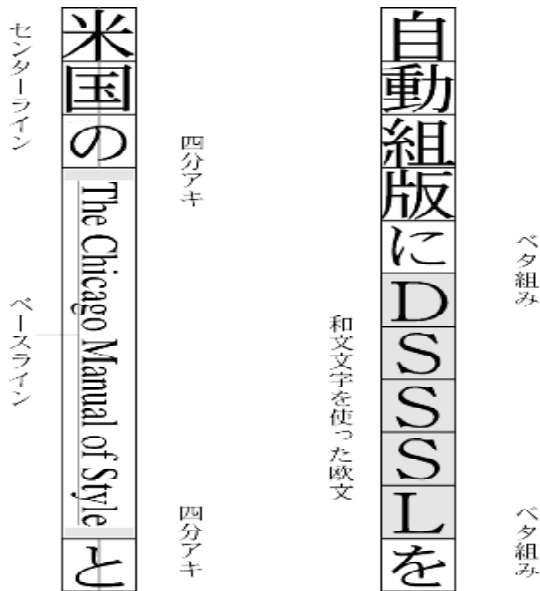
- ・和文文字が中心線揃えの場合は、**欧文**

<2>縦組みで、欧文を横書きのまま縦方向に配置する場合

- ・和文文字は行の中心線で揃える
- ・和文と欧文の揃えは、**欧文文字のベースライン**を左右に動かして行う
- ・和文と欧文の間のスペースは横組みと同じ

<3>縦組みで、欧文（略語などの短い語）を縦書きにして配置する場合

- ・**欧文文字**でなく、**和文文字**の全角文字を使う
- ・和文との間のスペースはなし（ベタ組み）



縦組みの和欧混植

<4>縦組みで、複数の洋数字や単位記号を横書きのまま横方向に配置する場合（縦中横）

- ・文字は欧文文字を使う
- ・和文との間のスペースはなし（[ベタ組み](#)）



横書き

縦中横

これは、年を元号で表す時や、単位付きの数字などを縦書き文中に入れる時などに使います。

(2) 和文組版特有の特徴

(a) 約物に関する規則

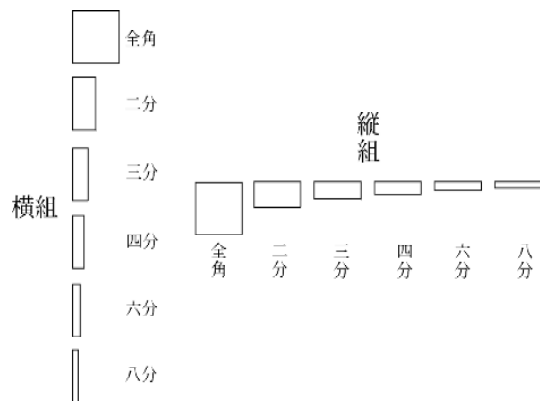
日本語の文章は、句読点の後やかっこの前後に区切り目があります。欧文は、それに加えて語と語の間にも区切り目があり、ここにスペースを入れます。和文には、この語間というがありません。そこで、行分割の際には、字と字の間を分割することになります。

[和文組版](#)では、文章の区切り目である句読点やその他の記号類の箇所に入れるスペースの量が決められています。この記号類を総称して約物といいます。約物に関しては、「[日本語文書の行組版方法](#)」に詳しい規則があります。以下にその内容を紹介します。

<1>文字の大きさ

全角組みの場合、文字の大きさ（横組みの場合は字幅、縦組みの場合は字の高さ）を次のように呼びます。

- ・全角 : 1文字分の大きさ
- ・二分（半角） : 1文字の2分の1
- ・三分 : 1文字の3分の1
- ・四分 : 1文字の4分の1
- ・六分 : 1文字の6分の1
- ・八分 : 1文字の8分の1



和文文字の大きさ

和文組版用語では、スペースのことをアキといい、スペースを入れない組み方のことをベタ組みといいます。例えば、1文字の半分の大きさのスペースを二分アキといいます。

<2>約物の大きさ

<半角の約物>

- ・ 始めかっこ類 ' " ( [ { < 「 『 【
- ・ 終わりかっこ類 ' " ) ] } > 」 』 】
- ・ 中点類 、 ,
- ・ 句点類 ・ : ;
- ・ 句点類 。 .

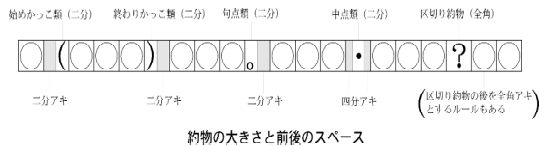
「日本語文書の行組版方法」では、読点（、,）は終わりかっこ類に分類されています。

<全角の約物>

- ・ 区切り約物（疑問符 ? 感嘆符 !）

<3>約物の前後のスペース

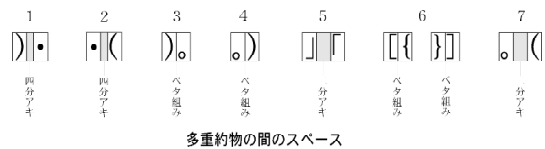
- ・ 始めかっこ類の前 : 二分アキ
- ・ 終わりかっこ類の後 : 二分アキ
- ・ 句点類の後 : 二分アキ
- ・ 中点類の前後 : 四分アキ
- ・ 区切り約物の後 : **ベタ組み**（**全角アキ**とするルールも他にある）



<4>連続する約物（多重約物）の間に入れるスペース

- ・ 終わりかっこ類の次に中点類が続く場合 : 四分アキ
- ・ 中点類の次に始めかっこ類が続く場合 : 四分アキ

- ・ 終わりかっこ類の次に句点類が続く場合 : **ベタ組み**
- ・ 句点類の次に終わりかっこ類が続く場合 : **ベタ組み**
- ・ 終わりかっこ類の次に始めかっこ類が続く場合 : **二分アキ**
- ・ 始めかっこ類または終わりかっこ類が続く場合 : **ベタ組み**
- ・ 句点類の次に始めかっこ類が続く場合 : **二分アキ**

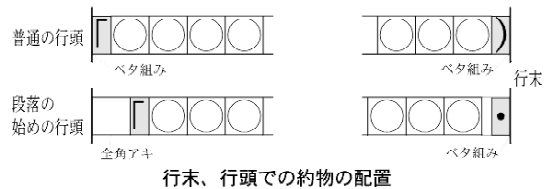


<5>行末での配置

- ・ 行末の終わりかっこ類の後 : **ベタ組み**（場合によっては**二分アキ**）
- ・ 行末の中点類の後 : **ベタ組み**（場合によっては**四分アキ**）

<6>行頭での配置

- ・ 行頭の始めかっこ類の前 : **ベタ組み**（場合によっては**二分アキ**）（他に**全角アキ** **全角二分アキ**とする場合もある）



## (b) 行分割に関する規則

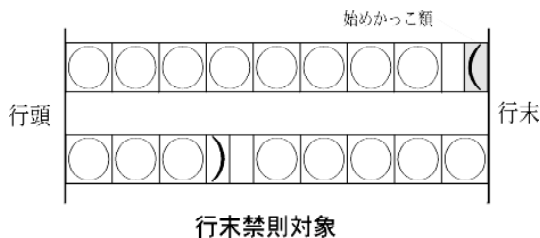
前節で挙げた**約物**についての決まりを前提として、**行分割**の禁則が定められています。主な禁則は**行末禁則**と**行頭禁則**です。行末禁則とは、行末に置いてはならない文字を定めたものです。行頭禁則とは行頭に置いてはならない文字を定めたものです。

ユ ヨ ッ  
 仮名の小字 あ  
 い う え お  
 ア イ ウ エ  
 オ  
 音引き ー  
 繰り返し記号 々

### <1>行末禁則

**行末禁則**とは、行末に置いてはならない文字を定めたものです。つまり、この文字の後に**行分割点**があってはならないということです。

- ・ **行末禁則対象**： 始めかっこ類



始めかっこ類とその後の文字は結びつきが強いため、この**字間**を分割してはなりません。始めかっこ類が行末に置かれると、それだけが孤立してしまい、かっこが内容をくくっていることが分かりにくくなります。

### <2>行頭禁則

**行頭禁則**とは、行頭に置いてはならない文字を定めたものです。この文字の前に**行分割点**があってはなりません。

- ・ **行頭禁則対象**：
  - 終わりかっこ類
  - 句点類
  - 中点類
  - 区切り約物
  - 行頭禁則和字**
    - 拗促音 や
    - ゆ よ つ ヤ

例えば、句点類は文章の終わりを示すものです。それが文章から分割されて行頭に置かれると、文章がどこで終わっているかが分かりにくくなります。また、拗促音や音引きは、前の文字と2つで1つの音を表すものなので、分割すると読みにくくなります。そのためこれらの文字は行頭に置くことを禁止されています。

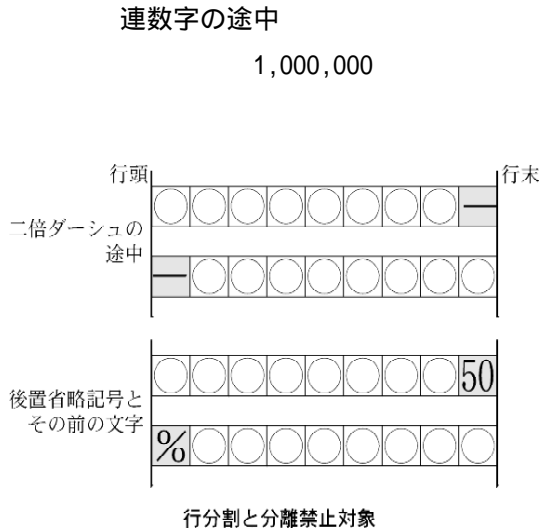


**行頭禁則和字**については、場合によっては行頭に置くことを許容することがあります。

### <3>分離禁止

**分離禁止**とは、特定の文字と文字の間や記号の途中など、離してはならない場所を定めたものです。分離禁止対象は、**行分割**やスペースによって離すことを禁止されています。

- ・ **分離禁止対象**：
  - 分離禁止文字** (**ダッシュ** ( - )、**リーダ** ( ... ) ) と前後の文字との間
    - 二倍物の**約物** (二倍**ダッシュ**、二倍三点**リーダ**) の途中と前後の文字との間
    - 前置省略記号 ( ¥ \$ £ ) と後の文字との間 ¥1,000 \$500
    - 後置省略記号 ( % ) と前の文字との間 100%

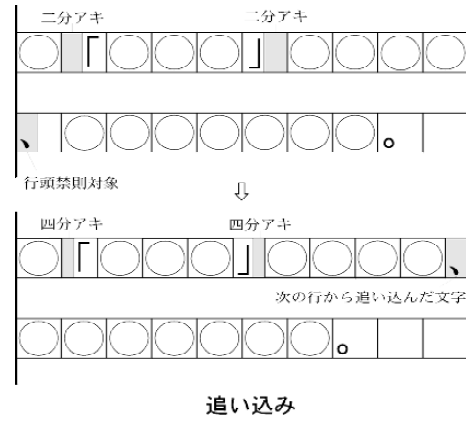


#### <4>禁則処理

以上に挙げた禁則を処理する方法を説明します。**禁則処理**とは、行長に合わせて機械的に分割すると、**分割点**として不適切な箇所が分割されてしまう場合に、別の箇所を分割点とするための処理です。

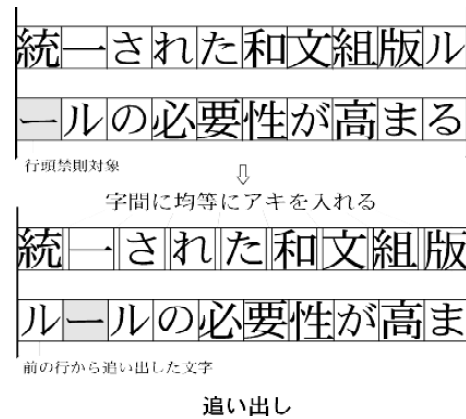
#### <追い込み>

行中のスペースを詰めて**分割点**を後にずらす方法です。**約物**の前後のスペースの他、**和欧混植**の場合は欧文の**語間**や和文と欧文の間のスペースも調整に使われます。



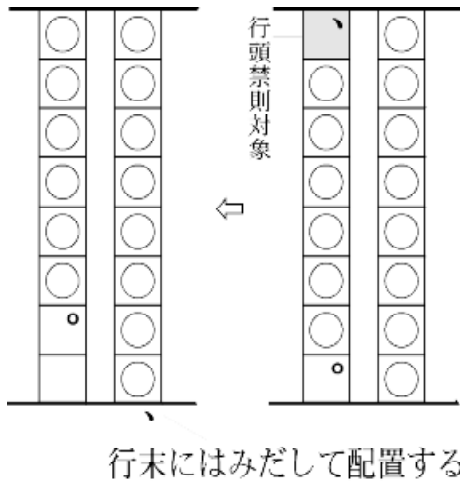
#### <追い出し>

行中のスペースに更にスペースを加えて**分割点**を前にずらす方法です。**追い出し**は、**追い込み**で調整しきれない場合に行います。欧文がある場合は欧文の**語間**や和文と欧文の間にスペースを加えますが、それが無い場合は、和文の**字間**に均等にスペースを加えます。この場合、**分離禁止対象**の文字間にはスペースを入れません。



#### <ぶら下げ組み>

これは、句点や読点を行頭に置くのを防ぐために、行末に1字分はみ出して置くことです。ぶら下げができるのは句読点のみです。また、**欧文組版**にはこの組み方はないため、**和欧混植**の多い横組みでは使わないほうがよいとする説があります。



ぶら下げ組み

ぎょうくみはん  
 行組版方法  
ポストスクリプト テフ  
 PS やTeXに対応  
 ルビ

以上は簡単なルールです。この他、**ルビ**文字の配置について「日本語文書の行組版方法」に詳しい処理が定められています。

### (3) 和文特有の組み方

**和文組版**に特有の組み方、**ルビ**、**圏点**、**割注**について説明します。

#### (a) ルビ

**ルビ**とは、振りがなのことです。言葉の読み方や意味を表すために振る小さな文字です。漢字の読み方を表すために振るのが一般的ですが、英単語の読みや、当て字を表すためにも使います。

**ルビ**の組み方には以下のようなルールがあります。

- ・文字サイズは親文字の文字サイズの2分の1が原則
- ・**縦組み**では親文字の右、**横組み**では上に配置する
- ・**ルビ**のついた**文字列**を途中で分割してはならない
- ・**ルビ**のついた**文字列**が行末や行頭に置かれる場合、ルビがはみ出してはならない

#### (b) 圏点

**圏点**とは、文章の一部分を強調するためにつける傍点のことです。

組み方のルールは次の通りです。

- ・文字サイズは親文字の文字サイズの2分の1
- ・1文字につき1つの点をつける
- ・**縦組み**では右、**横組み**では上につける

縦組みでは文字の右、  
 横組みでは文字の上につける

圏点

#### (c) 割注

**割注**とは、1行の中に注の文を小さい文字で複数行に分割して組んだものです。通常は、その複数行全体が一組のかっこでくくられています。組み方のルールには以下のものがあります。

- ・本文より小さい文字を使う（行数などに応じて指定する）
- ・**割注文字列**は通常は2行に分割する

この他、「日本語文書の行組版方法」には、**割注**が行分割される場合の処理が詳しく決められています。

和文には割注(このように2行に分けて組む注)があります。

割注

# 索引

DTP , .....	1	8	9	10	全角組み , .....	10
アウトデント , .....				4	高さ , .....	11
アキ , .....		10	11	12	多重約物 , .....	12
インデント , .....				4	縦組み , .....	2 8 9 10 11 15
追い込み , .....			6	14	縦中横 , .....	11
追い出し , .....			6	14	段間 , .....	1 2
欧文組版 , .....	3	6	8	9 14	段組み , .....	1
欧文組版ルール , .....				9	段落 , .....	3
欧文文字 , .....	3	8	9	10 11	ダーシュ , .....	13
オックスフォード・ルール , .....				8	詰め組み , .....	3
カーニング , .....		3	9		二分 , .....	8 11 12
脚注 , .....			6		日本語文書の行組版方法 , .....	8
禁則処理 , .....			14		日本語文書の行組版方法 , ...	11 12 15
行送り , .....			2			16
行間 , .....			2	6	ハイフネーション , .....	6 10
行頭禁則 , .....		6	8	13	八分 , .....	8
行分割 , .....		5	8	13 16	幅 , .....	11
行末禁則 , .....		6	8	13	半角 , .....	11 12
空白 , .....			4		版面 , .....	1 2 8
空白行 , .....			4		表記方向 , .....	8
組版処理 , .....			1		フォント , .....	2
組版ルール , .....			8		フォーマット処理 , .....	1
圏点 , .....			8	15	ぶら下げ組み , .....	14
語間 , .....		2	3	6 10 14	分割点 , .....	3 5 6 13 14
三分 , .....			8		分離禁止 , .....	8 13 14
シカゴ・ルール , .....			8		プロポーション , .....	3 9 10
四分 , .....		8	10	11 12	プロポーション送り , .....	10
章見出し , .....			4		プロポーション組み , .....	10
字間 , .....		2	3	6 9 10 13 14	プロポーションスペーシング , .....	3
字下げ , .....			4		ベタ組み , .....	3 10 11 12
節 , .....			4		ベースライン , .....	2 8 9 10
節見出し , .....			4	5	ベースラインシフト , .....	10
センターライン , .....			8		ページネーション , .....	10
全角 , .....		3	8	9 11 12	ページネーション・マニュアル , ..	8 10
全角送り , .....			10		見出し , .....	4 5
					見開き , .....	5 6
					文字列 , .....	15
					モノスペーシング , .....	3
					モノスペース , .....	9

- 索引 -

約物, .....	8	11	12	13	14	六分, .....	8	10		
横組み, .....	2	8	9	10	11	15	和欧混植, .....	10	14	
余白, .....				1	2	和文組版, .....	2	6	11	15
リーダー, .....					13	和文文字, .....	3	8	9	10
ルビ, .....				8	15	割注, .....	8	15	16	